

島根大学研究見本市

研究テーマ名

日本美術の鑑賞教育方法の研究

Research on Appreciation Lesson Methods of Japanese Arts

研究者紹介

氏名 有田洋子
ARITA Yoko
所属 教育学部芸術表現教育講座
Art Education Course, Faculty of Education
職名 講師
Lecturer

概要

対象作品の解釈について思考させ、様式を感受・理解させる鑑賞教育の方法を明らかにしようとしています。鑑賞対象には、日本美術を取り上げています。置かれた環境とともに鑑賞されるという日本美術の特色を「非完結性」と名付けて、それを鑑賞の重要な要素と考えています。
現在は、仏像様式の言語化、具体的にはキャッチフレーズ化して、諸様式を感受・理解させる鑑賞教育の方法について実証的に研究しています。

特色
研究成果
今後の展望

私の研究の特色は、まず日本美術の鑑賞に特化した研究であること、そして言語化を鑑賞教育の重要な方法と考えていることであると思います。
最近の研究成果として、以下のことを明らかにしました。
1. 様式のキャッチフレーズは、感情の言葉と像の言葉から構成できること。
2. 仏像の様式感情をSD法で分析した結果、小学生から専門家まで似たような感情をもつこと。
3. 美術史記述の感情語使用が増加傾向にあること。
4. 仏像様式のキャッチフレーズ化による鑑賞は、小・中学校、そして大学でも様式の感受・理解と楽しさとの両面を実現する教育的可能性があること。
今後の展望は、さらに精密な鑑賞教育方法について検討して、社会に提案していきたいと思っています。

キーワード

美術教育 鑑賞教育 日本美術 様式 言語化

リンク

<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/staff/staff74.html>